



沖縄のリゾートウエディング

おきなわFB短信(18)
(1分間で読めます。)

平成21年3月11日(水)

琉大の授業の中で、沖縄観光のシカケとしての選択と集中とは何かという課題を出した。課題に対する回答はなかなかおもしろい発想が多かった。

喜納健さんは、それはリゾートウエディングだと答えた。新しい人生の出発点において、沖縄から体験してもらう。その時、沖縄の自然や文化や人情に触れて、それを二人の人生の記念とし、貴重な記憶としてもらう。

その効果は、確乎としてほほえましい沖縄ファンの生産である。

全国のリゾートウエディングの中で、沖縄は首位で、もうすぐ1万組になるうとしている。彼は学生らしく言う、1万組のウエディングということはカップル2人で2万人、両方の家族がそれぞれ5名参加すれば12万人、これを10万組のカップルとすると、120万人の観光客の来訪となる。

このことをカヌチャの白石さんに話した。その通りだという。ハワイやグアムは二人きりのロマンティックウエディングだが、沖縄だと12人でなくて、二人の親族の方々も、行って見ようと20人くらいの家族的ウエディングで来てもらっているという。そして、それは一回きりのイベントではなくて、修学旅行 ウエディング 家族旅行 修学旅行 ウエディングの循環だという。実は白石さんは、沖縄観光のリゾートウエディング論のハシリだったのだ。

長期滞在という点から見ても、これは大きなインパクトとなる。ウエディングに沖縄へ来た人たちが3日で済まずはずがないだろう。新しい人生の出発点としてゆっくり滞在し、沖縄で良い思い出を作ってもらおう。より長期の滞在が期待できることは確実である。

現在、行政や業界は観光消費額の低迷を嘆いているが、ウエディングに来た人たちの消費は通常の観光客の比ではないであろう。

記念すべき人生の出発点にあたって、記念すべき貴重で多額の消費も期待できる。

沖縄全体を成功したテーマパークのようにする。沖縄を永続する世界の観光地にすることは、企業も住民もともに将来の価値として高めることに心がけることは面白い。